相模原市立並木小学校
学校だより１１月号

なみき

令和８年１０月３０日
Ｎｏ．７

「楽しい」と「ふざける」の違いを考える

～誰もが安心して過ごせる学校をめざして～

学　校　長

相模原市では、１１月を「いじめ防止月間」と定めています。学校では、子供たち一人ひとりが大切にされ、誰もが安心して学べる環境づくりに改めて取り組んでいきます。

いじめや学級のトラブルを予防するうえで、大人が日頃から子供たちとしっかり共有しておきたい大切なポイントがあります。それは、**「楽しい」と「ふざける」の違い**です。

一見、どちらも「笑い」があり似ているように見えるかもしれません。しかし、その本質はまったく異なります。



- **「楽しい」とは**

  自分も友達も笑顔になり、周りも安心して過ごせる状態です。お互い主体性や思いやりを育み、学びや人間関係を深め・広げていきます。

- **「ふざける」とは**



「自分だけが楽しい」けれど、周りの人は迷惑し、困っている状態です。自分中心な行動になりやすく、結果として周りの学びや安心感を壊してしまいます。

違いは「笑っているかどうか」ではありません。「みんなの安心や学びを支えているか、それとも壊しているか」が大きな違いです。

「いじめ」のきっかけの多くは、誰かの「ふざけ」や「ちょっとしたいたずら」から始まります。本人は「ふざけていただけ」「楽しかったからついやった」「その場のノリで。。。」と思っていても、受け取る側や周りの友達が嫌な思いをしたり困ったりしているならば、それは決して許されるものではありません。相手の気持ちを無視したやりたい放題の「ふざけ」は、周囲の心を傷つけるいじめへとつながる危険性をはらんでいます。

自由で安心できる学校・学級は、**「楽しい」をみんなで大切にし、「ふざける」を許さない態度**から生まれます。

学校でも「ふざける行動」にははっきりと歯止めをかけ、「何が本当の楽しさなのか」を子供たちと考え続けていきます。ご家庭におかれましても、ぜひ「学校でみんなが安心して楽しく過ごすこと」について、お子様とお話しするきっかけにしていただければ幸いです。

【いじめ防止月間に伝えたいメッセージ】

- **みんなが笑顔になる「楽しい」は大歓迎！**
- **誰かを困らせる「ふざける」は、みんなの安心や学びを壊してしまう！**